

令和6年度

教育委員会事務の点検及び評価に関する報告書

令和7年8月

吉備中央町教育委員会

目 次

I	はじめに	1
II	点検及び評価の方法等	1
1	対象	
2	報告	
3	方法	
4	助言及び意見をいただいた有識者	
5	公表	
III	教育委員会の組織及び活動	2
1	教育委員会の教育長及び教育委員	
2	審議案件	
3	研修会等	
4	学校訪問	
5	会議の運営等	
IV	教育委員会が管理執行する事務	3
1	基本的・総務的事務	
2	人的管理に属する事務	
V	主要事業の報告	5
1	妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援	5
	(1) 子どもが安心・安全に過ごせる環境整備	
	(2) 教育・保育の質の向上	
	(3) 支援が必要な子どもや保護者への対応	
	■有識者による評価意見等及び教育委員会の考え方	
2	教育環境の整備	7
	(1) 生きる力を育む教育環境の整備	
	(2) 家庭や地域の教育力の向上	
	(3) 子どもの安心・安全の確保に向けた環境づくり	
	■有識者による評価意見等及び教育委員会の考え方	
3	生涯学習の充実	12
	(1) 生涯学習と地域コミュニティの形成	

(2) 学習環境の充実	
■有識者による評価意見等及び教育委員会の考え方	
4 スポーツ・レクリエーション活動の充実	15
(1) 生涯スポーツの振興	
(2) スポーツ施設の充実	
■有識者による評価意見等及び教育委員会の考え方	
5 青少年の健全育成	17
(1) 青少年の健全育成活動の促進	
(2) 各種機関との連携の充実	
■有識者による評価意見等及び教育委員会の考え方	
6 地域文化の育成	20
(1) 文化財などの保存・継承	
(2) 地域文化の育成	
■有識者による評価意見等及び教育委員会の考え方	
VI 終わりに	23

I はじめに

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条第1項の規定により、教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況について、点検及び評価を実施しましたので、その結果を報告します。

II 点検及び評価の方法等

1 対 象

令和6年度の教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況

2 報 告

令和7年9月議会に提出

3 方 法

「施策」は、吉備中央町総合計画の重点施策に掲げている主な取組

「施策の内容」は、施策に係る具体的な取組内容や状況を記載

「成果と課題」は、実施した取組の成果と課題を記載

「評価」は、達成度についての内部評価を記載

A・・・十分な成果を得た

B・・・概ね成果を得た

C・・・成果もあったが、改善が必要

D・・・満足の得られる成果が見られず、事業の見直しが必要

E・・・事業の中止、廃止

4 助言及び意見をいただいた有識者

点検及び評価を実施するにあたり、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条第2項に基づき、教育に関し学識経験を有する次の2名の方に、教育委員会の実施した点検及び評価の結果について、意見等を伺った。

前嶋 英輝 氏(学校法人順正学園吉備国際大学 教授)

佐藤 智子 氏(元町立小学校教頭)

5 公 表

町議会への報告

教育委員会事務局での閲覧

町役場の掲示場に掲示及び町ホームページでの公開

Ⅲ 教育委員会の組織及び活動

1 教育委員会の教育長及び教育委員

職 名	氏 名	性別	任 期
教 育 長	石井 孝典	男	R 6. 4. 1 ～ R 9. 3. 31
教育長職務代理者	前田 文男	男	R 4. 10. 30 ～ R 8. 10. 29
委 員	佐藤 節子	女	R 2. 10. 30 ～ R 6. 10. 29
委 員	沼本 聖子	女	R 6. 10. 30 ～ R 10. 10. 29
委 員	平上 博	男	R 5. 10. 30 ～ R 9. 10. 29
委 員	河内 留美子	女	R 6. 10. 30 ～ R 10. 10. 29

2 審議案件

開催日	主な議決・報告等事項
4月19日	要綱改正、育英資金の貸付の承認、就学に関する許可等
5月29日	規則・要綱の改正、統合後の就学に関する許可等
6月27日	規則改正・制定、就学援助の認定、指定重要文化財の諮問等
7月29日	中学校教科用図書採択、教育委員会事務の点検及び評価に関する報告書、指定重要文化財解除の答申、育英資金の免除認定等
9月 5日	就学に関する許可等
9月26日	育英資金の貸付の承認等
10月30日	総合教育会議(長期欠席や不登校の状況、学力向上に向けた取組、アフタースクール等)
	就学に関する許可等
11月27日	教育支援委員会審議結果の承認
1月22日	育英資金の免除認定、臨時教育支援委員会審議結果の承認等
2月27日	規則改正、要綱制定、就学に関する許可、就学援助の認定等

3 研修会等

開催日	研修会等
11月13日	岡山市町村教育委員会研修会(ZoomによるWeb会議)

4 学校訪問

5月28日	円城小学校、御北小学校
6月 3日	津賀小学校、吉川小学校
6月 6日	下竹荘小学校、加賀中学校
6月17日	上竹荘小学校、豊野小学校
6月26日	大和小学校、吉備高原小学校
9月18日	吉川小学校、津賀小学校
9月20日	上竹荘小学校、豊野小学校
11月 6日	円城小学校、下竹荘小学校
11月19日	御北小学校、加賀中学校
11月25日	大和小学校、吉備高原小学校

5 会議の運営等

本町の教育委員会は、定例会を年10回、また総合教育会議を1回開催した。会議は、概ね全員の委員が出席し、毎回十分な時間を掛けて審議及び協議を実施した。主な内容としては、教育行政の重点目標及び施策、人事、予算、就学、教育課程、学校の様子、学力状況等、多くの議題について検討され、慎重に審議した。

教育委員は、県の研修会等に参加して識見の向上に努め、また町内の小中学校を定期的に訪問、併せて入学式、卒業式等の各種学校行事にも出席しながら教育活動の現場を直接参観して現状を把握しており、これらを踏まえて、取組の成果や今後の課題を協議している。

住民の意向や地域の実情に応じた教育施策となるよう、学校教育及び生涯学習の両面で今後一層工夫や改善に努めていく。

IV 教育委員会が管理執行する事務

1 基本的・総務的事務

町では、第2次吉備中央町総合計画基本構想・後期基本計画(令和3年度～令和7年度)を策定し、「22世紀の理想郷(ふるさと)吉備中央町」を将来像に掲げ、「子どもたちの笑い声があふれる懐かしく新しいふるさとの創造」の実現を目指し、町民と行政が知恵と力を出し合い、共に協力してまちづくりを進めている。その計画のなかで、教育委員会では、「教育環境の充実」を目標として取り組んでいる。

「町の将来を担う子どもを増やす」を重点プロジェクトに、①妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援、②教育環境の整備、③生涯学習の充実、④スポーツ・レクリエーション活動の充実、⑤青少年の健全育成、⑥地域文化の育成を目標に取り組んでいる。

令和6年度は、特に小学校統合に向けた準備に取り組み、令和7年度に児童が円滑に新たな小学校で学べるようハード面、ソフト面いずれも予定どおり整備できた。新小学校の開校後も様々な諸課題に迅速に対応し、より良い学習ができるよう体制を整えている。

2 人的管理に属する事務

本町の教育委員会は、本委員会事務局内の教育総務班、生涯学習班それぞれにより教育行政の基本方針や規則等の策定、制定、改正の原案を提案し、教育委員会において協議や審議をしながら具体的な教育施策を推進している。

町立小・中学校教員の県費教職員の人事については、岡山教育事務所と連携を図りながら、指導体制の充実や特別支援教育の推進、学力向上や生徒指導上の問題など、学校が抱える教育課題の解決のための加配要望を行い、課題解決に向けた教員配置に努めている。

また、個々の教職員の指導力向上を図るために、吉備中央町教育研修所の活動をはじめ、本町にある岡山県総合教育センターの講座や校内外における研修等、多方面から研修している。

学校運営に関しては、各校と町教育委員会とが連携を図りながら、必要に応じて県教育委員会から支援を受け、学校長に対して必要な連絡、指導及び助言をしている。

また、G I G Aスクール構想の推進を図るため、児童生徒に1人1台のタブレットを配布し、適切な活用に努めるとともに、ルールづくりや教職員研修、環境整備等を進めることで、効果的な学習環境や、教職員の働き方改革にもつながっている。

特別支援教育については、教育支援委員会の判定状況から特別な支援を要する児童生徒の増加が見込まれ、特別支援教育をより充実させるための体制づくりを図っている。さらに県費負担教員の配置基準による教職員だけの指導が困難な場合は、学校運営を円滑にするために町費による教育支援員の配置に努めている。

V 主要事業の報告

1 妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援

(1) 子どもが安心・安全に過ごせる環境整備

施 策	子どもの居場所づくり
内 容	・放課後の子どもたちの居場所として、小学校や地域住民と協働した「放課後子ども教室」で遊びや学び、体験活動、交流活動等を行うなど、子どもたちに安全・安心な居場所を提供します。
成果と課題	・大和小学校、御北小学校に設置している放課後子ども教室では、週2日、また各小学校付近で民営されている児童クラブと連携し、子どもたちの放課後における安全、安心な居場所を提供した。また、令和7年度から開始するアフタースクールの準備を完了した。
教育委員会による自己評価	B

(2) 教育・保育の質の向上

施 策	教諭の資質向上
内 容	・就学前教育アドバイザーの配置により、育てるべき力や保育のねらいなど就学前教育の共有を図り、小学校との連携、接続をスムーズに行います。
成果と課題	・小学校教職員が公開保育研修会へ参加し、就学前教育と義務教育との連携や円滑な接続について研修した。
教育委員会による自己評価	B

(3) 支援が必要な子どもや保護者への対応

施 策	障害児施策の充実
内 容	・家族や地域、関係機関との連携等により療育体制の整備に努めます。また、乳幼児期から学齢期まで切れ目のない一貫した支援を行うため、共通支援シートを活用し、関係機関との情報連携を強化します。
成果と課題	・新入学児童の学習の様子や学校生活の様子を関係者が参観し、意見交換する機会を設け、園と学校の連携を強化した。協議資料として、共通支援シートを有効活用し、支援体制を強化した。
教育委員会による自己評価	B

施 策	子どもの貧困対策
内 容	・子どもの将来がその生まれ育った環境によって左右されることのな

	いよう、貧困の状況にある子どもが健やかに育成される環境を整備するとともに、教育の機会均等を図るなど子どもの貧困対策を総合的に推進します。
成果と課題	・経済的理由によって就学の困難な児童生徒で、町内に在籍する小学生、中学生を対象に、就学援助制度により学校用品購入費等を67名に支給した。
教育委員会による自己評価	B

■有識者による評価意見等及び教育委員会の考え方

(1 妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援)

評価者名	前嶋 英輝
評価意見	子どもが安心・安全に過ごせる環境整備は全国的な重要課題となっている。「放課後子ども教室」での遊びや学びの充実、民営児童クラブとの連携も地域に必要な貢献となっており高く評価できる。特に低学年の児童が「毎日」安心して過ごすことのできる放課後の居場所を提供したい。令和7年度からのアフタースクールがこれらの役割を果たしつつ学童保育を必要とするすべての保護者の支援につながることを期待したい。 教育・保育の質の向上では、就学前アドバイザーの配置、就学前教育と義務教育との連携や円滑な接続は全国的な重要課題である。吉備中央町では以前から自然な自由保育が展開されている環境があり、それをこども園でも継続できている。この点を大切にしながら義務教育への接続を考えるならば現地での研修が生きてくると考えられる。 支援が必要な子どもや保護者への対応についても、同様に乳幼児期から学齢期までの切れ目のない一貫した支援を情報連携の点で重視しており、一人ひとりに合った支援が策定できる環境にある。子どもの貧困対策については、抜本的な対策は難しいが当事者の親子からきめ細かな聴き取りを実施することで本質的な教育の機会均等に近づくことができると考えられる。
評価者名	佐藤 智子
評価意見	公開保育、公開授業に相互いが参加し合うことは、切れ目のない支援に役立ち、成果も上がりやすいと思う。 支援が必要な子どもや保護者への対応については、新入学児童の学習の様子や学校生活を関係者が参観し、意見交換することは、支援の在り方を検討するために役立っていると思う。これからも、新入学児童だけでなく、園や学校生活の様子を参観する機会を設け、継続的に子ども

	の成長を見守り、支援の在り方を検討してほしい。
教育委員会の考え方	意見にあるとおり、子どもたちが安全安心に過ごせるよう、切れ目のない支援を目指すには、地域の方の支援が不可欠と考える。学校からも今以上に情報を発信し、地域の方々の協力を得ながら各種事業を進めていく。 支援を要する子どもの保護者への対応は、就学前から各部署及び関係する事業所と密に連携をとり、真に必要な支援を見極め、検討していく。 アフタースクールについては、順調にスタートできたと感じている。来年度以降に向けて、さらに地域の方々の力を得ながら、より一層充実したものを目指す。

2 教育環境の整備

(1) 生きる力を育む教育環境の整備

施 策	教育内容の充実
内 容	・「知・徳・体」のバランスのとれた生きる力を育むために、町独自の学力調査を実施し、児童生徒の課題の把握に努めるとともに、支援員を配置し放課後学習サポートを推進します。 ・小規模化した小学校・園を適正に配置するために、学校等再編整備を進めて、魅力ある小学校・園の開校・開園を図ります。
成果と課題	・町独自の学力調査が毎年3月に実施できている。また、支援員を希望する3小学校に対して、放課後をはじめ朝学習や休憩時間等における補充的な学習の充実が図れるよう個々の状況に応じた学習を支援した。 ・児童が新小学校へスムーズに移行できるよう、通学手段等を整備し、また校外学習を含めて統合校ごとに3校合同学習を複数回実施し、円滑に新小学校での学びの場を提供できる体制を整えることができた。
教育委員会による自己評価	A

施 策	教職員の資質向上
内 容	・吉備中央町教育研修所の基本方針に基づいて、成果の上がった取組や事例の情報共有を図り、教師の教育技術の向上を推進します。 ・英語学習やプログラミング教育など専門性の高い教育の質の向上を図ります。
成果と課題	・吉備中央町教育研修所小中合同研究部会において、各校の学力向上

	に関する取組状況の確認と好事例を共有した。 ・各専門部会における公開授業、研究協議や、外部からの講師を招聘した研修会を開催し、教師の指導力向上に向けた研修を実施した。ALT(外国語指導助手)3人体制で、1校当たり週2回勤務し、生きた英語による学びを深める機会を創出した。ICT機器を活用しながら、小学校算数の正多角形の作図や小学校理科の電気の利用等、プログラミング教育を進めることができた。
教育委員会による自己評価	B

施 策	学校施設整備の推進
内 容	・ICT教育に対応するよう、各教室で利用できるタブレットを配置するなど、学習機器の充実を進め、学習しやすい環境整備を推進します。 ・令和7年4月に統合し、新たに開校する小学校の学習環境の整備を推進します。
成果と課題	・ICT教育をさらに進めるため、学校から要望のある学習アプリや授業支援アプリを導入し、学習環境の向上を図ることができている。 ・吉備高原小学校の改修を完了し、令和4年度から順次進めていた新小学校の施設改修を令和6年度までに予定どおり完了した。
教育委員会による自己評価	A

施 策	国際教育の推進
内 容	・英語教育の充実に向けた環境整備や教職員への研修の実施を図り、「見る」「聞く」「書く」「話す」等の技能の向上を推進します。
成果と課題	・語学指導等を行う外国青年招致事業「JETプログラム」で普段聞く機会の少ないネイティブの英会話を授業のみならず、様々な教育活動の中で、聞いたり話したりすることでそれぞれの力が身につけることができた。
教育委員会による自己評価	B

施 策	相談体制の充実
内 容	・スクールソーシャルワーカーを全小中学校に配置し、児童生徒への支援を進めるとともに、教職員の指導への助言も行います。 ・いじめ問題の実態について関係者での情報共有を図るとともに、教育相談やアンケートの実施によるいじめ問題の未然防止に取り組みます。

	・スクールカウンセラーを全小中学校に配置し、子どもの相談に対するカウンセリング機能の充実を図ります。
成果と課題	・スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーを全校に配置し、長期欠席や不登校等の特別に支援を要する児童生徒への対応や家庭支援を行った。 ・児童生徒へのカウンセリングや教職員への助言を行い、学校の教育相談体制を強化した。また、各校で教育相談やアンケートを実施し、いじめ問題の未然防止、早期対応に取り組めた。 ・スクールソーシャルワーカー・スクールカウンセラーの各校への配置時間を増加させるとともに、定期的に町教委、関係機関との連絡会を設け情報共有を行った。中学校への自立応援室の設置や、オンライン相談室の活用推進により、生徒の居場所づくりや相談体制の強化を図れた。
教育委員会による自己評価	B

(2) 家庭や地域の教育力の向上

施 策	家庭における教育力の向上
内 容	・家庭学習強化週間を重点に、子どもたちの生活習慣と学習習慣の定着を促すとともに、親育ち応援学習プログラムの実施促進を図り、家庭の教育力の向上を図ります。
成果と課題	・中学校の試験週間に合わせて、家庭学習強化週間として定め、宿題の出し方等を工夫した好事例を共有した。また、各小学校の新入生保護者説明会において、家庭教育支援チーム「ご近所さん」のファシリテーターが親育ち応援学習プログラムを実施し、進学や子育てに関する悩みや不安感の解消を図れた。
教育委員会による自己評価	B

施 策	地域における教育力の向上
内 容	・地域の豊かな自然や伝統文化を学ぶ機会を通して、地域住民による学習支援や体験活動の指導の促進を図ります。 ・学校評議員による教育内容の改善に向けた意見交換や地域学校協働活動を展開し、学校・家庭教育支援の取組を推進します。
成果と課題	・社会科や総合的な学習の時間において、地域の方から学ぶ活動を実施し、町内の文化や伝統に触れる学習を行った。3、4年生社会科副読本「岡山県のまん中吉備中央町」による郷土学習を進め、地域の施設見

	学や体験学習も積極的に行い、地域への理解を深め、郷土愛を育めた。 ・小学校再編後も“地域の子どもは、地域で育てる”という思いが継続されるよう、地域学校協働活動推進員の配置について年間通して関係各所と協議し、説明して、円滑に新校開校の令和7年度が迎えられた。 ・中学校の学校運営協議会では、社会に開かれた教育課程の実現に向け、委員が地域連携の取組について継続的に協議を重ねた。その結果、令和7年度の教育活動の工夫につながった。
教育委員会による自己評価	A

(3) 子どもの安心・安全の確保に向けた環境づくり

施 策	通学路等の危険箇所の解消
内 容	・地域や保護者と協力して、通学路等の危険箇所の確認や解消に取り組みます。
成果と課題	・PTAからの要望、また新小学校への新しいスクールバスの経路について、県と連携し、通行の支障となる樹木を伐採した。 ・バスの乗降場所付近に通学路に係る看板等を重点的に設置した。引き続き、児童の安全を確保するために看板等を購入し、地域からの要望に即時対応できるよう看板の在庫も確保できている。
教育委員会による自己評価	B

■有識者による評価意見等及び教育委員会の考え方

(2 教育環境の整備)

評価者名	前嶋 英輝
評価意見	「生きる力」が学習指導要領等の改訂で重視されたのは「何ができるようになるか」を明確化するためである。ただカリキュラム・マネジメントの確立のために「主体的・対話的で深い学び」を充実させるためには、習得と活用・探求のバランスが重要であり、この点が現代の保育・教育の最難関と言っても過言ではない。町独自の学力調査の実施をはじめ児童生徒の課題の把握に努めながら「知・徳・体」のバランスについて検討している点は全国的な課題の最前線を走っていると評価できる。新小学校での学び環境の整備に十分な成果が現れ始めているといえよう。 教職員の質の向上については、小中合同研究部会での情報共有や各専門部会による公開授業や研修会によって、十分な環境が担保されて

	いるといえる。特に ALT 参加による英語教育や ICT 機器を活用したプログラミング教育では、児童生徒の興味関心に沿った生き生きとした教育が展開されている。 学校施設整備の推進はカリキュラムや教員の質の向上に対応できるよう充実できている。学校施設改修を含めて令和 6 年度までに必要な整備が完了し今後の教育の充実が期待できる。 国際教育の推進では、ネイティブの英会話を始め具体的な体験として学習環境が整っている。ネット時代でもあり、海外の同学年の児童生徒と交流できる機会も提供できる環境作りにも期待したい。 相談体制は、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの全校への配置に見られるように充実していると評価でき、現代の学校内での諸問題に正面から対応できる体制づくりが見られる。個別の問題に対して一般的でなく「個別」にフレキシブルな連絡チームが柔軟に対応できる積極的で思いやりのあるシステムが育つことが期待される。 家庭における教育力の向上については、ファシリテーターの活動など具体的な実践が取り上げられており、宿題などでの家庭と学校との情報共有に新鮮な取り組みが見られた。 同様に地域における教育力の向上については、「岡山県のまん中吉備中央町」のような身近な教材を取り上げることで、まさに地域による教育が実践でき地域理解が深まることが期待できる。小学校再編のための努力が実り、地域の特性が教育的な財産となるような継続した活動ができていると評価できる。 通学路等の危険箇所の解消についても、新しいスクールバスの経路も含め十分な対応が取られている。
評価者名	佐藤 智子
評価意見	町独自の教育研修所の組織や県総合教育センター、青少年自然の家の施設があり、他の市町村に比べて教師が研修し、資質向上する機会に恵まれている。また、教職員が子ども一人ひとりに目が届きやすい実情である。個に応じて子ども達に生きる力をつけてほしいと思う。 近年は、数多くの外国人が来日し、日本人も気軽に外国に出かけており、ますます国際教育の推進は必要となってくる。外国語の教育だけでなく、身をもって外国の文化や習慣などを体感することも大切ではないだろうか。町内にも多くの外国人が住み、生活を営んでいる。また、保護者の中にも外国人がおられると思う。参観日などを利用してそれぞれの国の一端に触れる機会はあると思う。時間が取れなくても、本や

	衣服、生活用品の一部などを借りて展示することでも、身をもってその国の一端に触れることができるのではないだろうか。 学校再編、地域住民の協力で令和7年度を迎えられたことは、評価してよいだろう。また、子どもの学力向上に家庭や地域への働きかけで成果も得ることができていると思われる。 スクールバスや家庭の送迎で通学している子どもたちが増加する中、子どもたちは生活の中でどのくらい自然の営みを見聞きし、体感しているのだろうか。また、住んでいる土地や動植物、田畑の農作物、自然災害に対する人々の知恵や工夫をどのくらい知っているのだろうか。せめて、学校が休みの日だけでも、身近な環境に目を向けるよう、声掛けをすることも必要ではないだろうか。生きる力を育むには、知識だけでなく、知恵を生み出す力を付けることが必要だと思う。 子どもは、思わぬ行動をとることがあると思う。目線の違いから、大人に見えても子どもには見えていない部分もあるため、子ども目線からの点検・確認を続けてほしい。
教育委員会の考え方	小学校の統合に向けて、一定の教育環境の整備を図ることができたと考えている。さらなる向上を目指すに当たり、スクールカウンセラー等の体制を維持しながら、個々に応じた最適な学びを可能な限り実現し、垣根を超えたチームとして対応していくことを目指していく。 国際教育については、意見にあるとおりネイティブの英会話に触れる機会を増やすよう、外国青年招致事業と合わせて、町内に在住する外国人の方の協力を得ながら、文化や習慣も触れられる環境を整備するよう、実現に向けてその方策を検討する。

3 生涯学習の充実

(1) 生涯学習と地域コミュニティの形成

施策	学習機会を通じた地域の絆の再構築の推進と地域課題の解決に向けた取組
内容	・多様な講座を開催することで、学習機会の充実と趣味や教養を深めるとともに、学習機会によって得られるコミュニティの活性化を推進します。 ・公民館の連携強化と団体・クラブ活動のネットワーク化を推進します。
成果と課題	・公民館でスマホ教室、時代の流れに沿った各種講座を開催するなど、学習環境を充実させた。 ・地域コミュニティの拠点施設として、公民館クラブ活動の活性化及び

	生涯学習活動を支援し、各クラブ・団体の交流を深められた。 ・小学校統合に伴い地域行事等について各公民館で情報共有を図り、見直す必要がある。
教育委員会による自己評価	C

(2) 学習環境の充実

施 策	ライフステージ等に応じた学習環境の整備
内 容	・ICTを活用した児童生徒の家庭学習の充実を図ります。 ・図書館の蔵書の充実と知的好奇心を満たすための講座開催や、新たな本との出会いにつなげる場所づくりを図ります。 ・公営塾で放課後の学習時間を確保することにより、学力の底上げを図ります。
成果と課題	・家庭学習の充実のため、課題をタブレットでの録画による映像での提出を求め、家庭で録画したものを発表できる体制を整えた。これにより、人前に出ることが困難な児童も課題発表しやすくなった。 ・6万冊を超える蔵書数と他市町の図書館からの貸出しにより利用者の要望に応えるとともに、様々なイベントを開催した(表1参照)。また、図書館に来ることが難しい方が図書館の本を利用することができるように、電子図書サービスの試験運用をした。 ・下竹荘公民館で、地域おこし協力隊員が月曜日から金曜日の放課後、英語と数学を教えており、1年生が9名、2年生が21名、3年生が12名の生徒が塾に通った。学力向上に加え、妙本寺での特別授業や進路希望に応じた講座等の特色を生かした学習支援に取り組むことができた。
教育委員会による自己評価	B

表1(図書館の状況)

日時	イベント名	内 容
毎月第1・第3火曜日	移動図書館車「こっぷり号」Aコース	吉備高原・下竹荘・大和方面へ月に2回出前図書(移動図書館)
毎月第1・第3水曜日	移動図書館車「こっぷり号」Bコース	吉川・御北方面へ月に2回出前図書(移動図書館)
毎月第1・第3木曜日	移動図書館車「こっぷり号」Cコース	円城・納地・上竹荘方面へ月に2回出前図書(移動図書館)

日時	イベント名	内 容
4月20日～ 5月12日	こども読書週間	ぬりえの配布、図書館キャラクターの展示、ガチャガチャの開催等
6月9日	子育て応援講座	読み聞かせ等をされている「そらきたホイ！」のお二人による講座
6月15日	体験ブッククラブ①	町民の方による語りと、かえるのびっくり箱づくり
6月22日	土曜シネマ①	図書館貸出DVDを大画面で鑑賞
7月1日	電子図書サービス「おうちデジタルライブラリー うちデジ」試験運用開始(令和7年2月末まで)	電子図書サービスの試験運用(色々な方に使ってもらうために、各学校へのID配布、公民館スマホ教室での説明等を行った。)
7月20日・ 27日・28日 ・8月17日	夏休みイベント	図書館のお仕事体験(小学生対象)と、電子図書サービス体験会を開催
8月4日	図書館フェスティバル	絵本作家の黒川みつひろさんによるお話とワークショップ
8月17日	土曜シネマ②	図書館貸出DVDを大画面で鑑賞
9月21日	体験ブッククラブ②	お話会とフェルトのマスコットづくり
9月25日	講座「きのこのはなし」	きのこについての座学とフィールドワーク
10月19日	作家講演会	黒柳桂子さんの講演会
10月26日～ 11月10日	秋の読書週間	古本市(図書館利用者がおすすめ本を持ち寄って、来た人に無償で持ち帰ってもらうイベント)の開催、本の仕組みの展示等
11月12日～ 11月14日	加賀中学校職場体験	職場体験の受入(2名)
11月16日	土曜シネマ③	図書館貸出DVDを大画面で鑑賞
12月14日	体験ブッククラブ③	図書館福袋づくり
1月26日	福福来来	加賀語りの会どんぶらこの語り、町民による琴の演奏等

■有識者による評価意見等及び教育委員会の考え方

(3 生涯学習の充実)

評価者名	前嶋 英輝
評価意見	生涯学習と地域コミュニティの形成では、公民館との連携など団体・クラブ活動のネットワーク化が図られている。中学校での部活動などについての教員の働き方改革にも資する提案が出されることにも期待したい。 学習環境の充実については、タブレットを活用した課題の発表など児童生徒の関心ややる気に直結する取り組みが見られる点が評価できる。特に図書館は優れたイベントやサービスを提供できており、誇りうる我が町の図書館である。学校の課題と連動した取り組みなどによりさらに図書館を利用できるメリットを伝えたい。塾や特別授業などにも特色があり、部活動問題も含めて学校との連絡の場や総括的なプロデュースが可能な方策が求められる。
評価者名	佐藤 智子
評価意見	生涯教育は、学校教育と違い、学習する側の意見や要望を直接聞く機会が多くあると思う。そのため、公民館や図書館では、意見や要望を取り入れた学習の場を提供できていると感じる。 図書館は二つの施設を維持しながら、他の市町村や役場の他部署と連携し、運営ができていていると思う。
教育委員会の考え方	教育委員会では、地域社会の発展と町民の学びを支えるため、公民館と地域の連携やネットワーク化を強化し、学び直しを推進していく。 ライフステージに応じた学習環境を充実させるために、社会教育施設利用者のニーズを取り入れながら、タブレットの活用による知的資源へのアクセスを拡充する。また、学校の長期休暇期間中における児童生徒の図書館利用を推進する。

4 スポーツ・レクリエーション活動の充実

(1) 生涯スポーツの振興

施策	ニュースポーツの普及
内容	・ニュースポーツの普及を図り、生涯スポーツを定着させるため、人の発掘・育成に努めます。
成果と課題	・町内イベントでニュースポーツの体験ができる場を提供し、普及、定着に取り組めた。また、スポーツ推進委員を派遣し、ニュースポーツの指導を行った。
教育委員会による自己評価	B

施 策	団体・組織の育成
内 容	・事務手続きなど利用団体の負担の軽減を進めるとともに、人口減少対応した団体・組織の運営を検討していく。
成果と課題	・スポーツイベント等、競技人口を増やす機会を創出したが、地域と連携した組織力向上を図ることが今後の課題となっている。
教育委員会による自己評価	C

施 策	大会等への参加者数の増加
内 容	・新たな参加者を得るため大会の規模・日程等の開催内容を検討するとともに、多くの町民が参加できるよう広報に努めます。
成果と課題	・大会内容の見直しを行い、参加者の増加を図った。前年度の参加者に声かけ等を行い、748名(内中止事業への参加申込者239名)の参加者が参加した(表2参照)。新規参加者の獲得が課題となっている。
教育委員会による自己評価	B

(2) スポーツ施設の充実

施 策	施設機能の充実化
内 容	・計画的に施設を改修し、利用者のニーズに応じた快適なスポーツ施設の提供を図ります。
成果と課題	・かもがわ総合スポーツ公園野球場のベンチを新調した。また、多目的広場から駐車場へ球などが飛ばないように、防球ネットを新設した。アリーナ照明のLED化と空調設備の設置が課題となっている。
教育委員会による自己評価	B

表2(開催状況)

日付	行事	参加者数
4月20日 ～21日	吉備中央町バレーボール教室	175名
6月23日	吉備中央町スポーツフェスティバル【野球のみ中止】	216名
10月13日	第36回吉備高原車いすふれあいロードレース大会(協会)	20名
11月24日	吉備中央町ランニング教室	75名
1月26日	第14回「晴れの国岡山」駅伝競走大会	23名
2月9日	第15回吉備中央町早春マラソン大会【中止】	(239名)

■有識者による評価意見等及び教育委員会の考え方

(4 スポーツ・レクリエーション活動の充実)

評価者名	前嶋 英輝
評価意見	生涯スポーツの振興では、ニュースポーツの普及や各種団体の支援を行っているが、農業を中心にした地域でもありクラブ活動に発展することは難しい。大会の運営は大変な苦勞を伴うが、地域ごとの組織は定着しているため時期を選んで充実した企画を行うことができる可能性は高い。そのためのスポーツ施設の充実化は、利用者のニーズをよく検討しより多くの町民に開かれた施設になるように調査した上での運営が必要である。
評価者名	佐藤 智子
評価意見	広報紙や学校だよりなどに事業内容や結果などが記載され、多彩な活動を行っていることがうかがわれる。 ニュースポーツは体験して初めてその面白さがわかる。住民が集まる場所で、ニュースポーツを紹介したり、体験できたりする機会はないだろうか。 人口減少の町にとっては、町内在住者や町内勤務者の増加は困難なことと思われるが、参加人数にとらわれず事業の継続を望む。
教育委員会の考え方	ニュースポーツを普及啓発することで、幅広い世代の生涯スポーツ振興に繋がるため、引き続き取り組んでいく。 各種スポーツイベントの開催については、町民の生活様式や学校行事、町内イベントを勘案し、適切な時期に開催することを検討していく。また、充実したイベントとなるようニュースポーツを始め、様々な競技にふれる機会となるイベントを企画する。

5 青少年の健全育成

(1) 青少年の健全育成活動の促進

施策	青少年健全育成活動の充実
内容	・各種のスポーツ少年団活動や文化活動、ボランティア活動、ちびっ子チャレンジ教室等の体験活動を充実させ、青少年がさまざまな活動ができるよう計画的に推進していく。 ・中学生のヤングボランティアの力が十分発揮できる場を提供していく。
成果と課題	・吉備中央町小学6年生みんなの絆づくり事業を牛窓研修センター・カリヨンハウス(瀬戸内市)で63名の参加により1泊2日で実施した。 ・ちびっ子チャレンジ教室を年6回開催し、233名の小学生が参加した

	(表3参照)。中学生もヤングボランティアとして参加し、47名が運営をサポートした。
教育委員会による自己評価	B

施 策	青少年相談員連絡会の充実
内 容	・青少年の健全育成を推進するため、青少年相談員連絡協議会等の組織の活性化を図るとともに、相談員の質の向上を図ります。
成果と課題	・協議会を開催し、DVDの視聴、相談員の活動について意見交換を行い、見聞を深めることができた。
教育委員会による自己評価	B

(2) 各種機関との連携の充実

施 策	家庭・地域・学校との連携
内 容	・地域ぐるみで子どもを育てるよう地域学校協働本部を中心とした家庭・地域・学校の連携を継続するとともに、多様な関係者(保護者、教職員、地域住民等)が集まり、課題解決を目指す「熟議」によって、より連携を深めます。
成果と課題	・小学校再編後も益々地域と学校の連携・協働が推進されるよう、拡大大学校運営協議会を実施した。教職員や地域住民、公民館職員等が一堂に会し熟議を行い“こんな子に育てたい”“こんな学校にしたい”“こんな地域にしたい”という願い・目標を共有した。
教育委員会による自己評価	A

施 策	相談体制の充実
内 容	・青少年相談員制度の周知を図り、保護者や子どもたちが悩みなどを相談できる体制を整備します。
成果と課題	・「広報きびちゅうおう」への掲載や、各学校でチラシを配布し、制度を周知した。
教育委員会による自己評価	B

表3(ちびっ子チャレンジ教室)

日付	内容	参加者数
6月22日	サマーアレンジメントに挑戦！	65名
7月20日	魚つかみ取りにチャレンジ！	39名
9月21日	パラパラまんがを作ろう！	44名
10月 6日	ニュースポーツに挑戦！	11名
11月30日	餅つき体験をしよう！	38名
1月18日	レッツクッキング！	36名

■有識者による評価意見等及び教育委員会の考え方

(5 青少年の健全育成)

評価者名	前嶋 英輝
評価意見	青少年の健全育成活動の促進では、さまざまな活動を支援すると同時にヤングボランティアの活動の場を設けることもできしており、小学生の絆づくりなどは教育委員会が仲介することでしか達成できない事業であり高く評価できる。青少年相談員連絡協議会での継続した活動は価値がある。 各種機関との連携の充実では、「熟議」での活動に価値がある。学校の統合という大きな課題に共に取り組んだ成果が次の活動につながる良い機会となっている。 相談体制の充実は、上記の活動と合わせて周知されることが望ましい。学校や家庭の現状に応じたプッシュ型の相談体制の検討もなされる時期かもしれない。
評価者名	佐藤 智子
評価意見	教育委員会だけでなく、公民館なども子どもが活動できる事業を実施し、よい体験の場が提供されていると思う。体験したことがすぐに成果として表れることは少ないが、数年後、数十年後にその体験が思わぬ力となることがある。 人口減少で、学童期の子どものいない家庭や青少年の姿を目にしない地域住民も数多くいる。広報紙や公民館だよりで子どもの作文や川柳、習字などを目にすると心が和む。広報紙などに子どもたちが自由に投稿でき、自分の作品や意見が掲載されるコーナーを設けてはどうだろうか。
教育委員会の考え方	青少年の健全育成については、地域学校協働本部や青少年相談員連絡協議会等により地域ぐるみで健やかに成長できる環境を整えるとともに、町内の子ども達が将来大人になって社会で活躍できる人材とな

	るよう取り組んでいる。 相談体制を活用してもらうために、周知や活動の認知は重要な取り組みなので、広報紙やホームページ等を活用し広く周知しているが、相談者や子ども達により効果的に情報を届ける方法を検討していく。
--	--

6 地域文化の育成

(1) 文化財などの保存・継承

施 策	文化財の保存・活用の仕組みづくり
内 容	・町「文化財保存地域活用計画」を策定し、町全体で文化財の保存・活用する仕組みづくりを行います。
成果と課題	・地域活用計画の策定にあたり、十分な調査や研究ができていないことが課題となっている。今後、策定に向けての調査を進めるためのロードマップ等を作成していくことを改めて検討していく。
教育委員会による自己評価	D

施 策	町文化財の保存
内 容	・地域の指定・未指定の文化財の把握に努め、資料のデジタル化を促進する。
成果と課題	・指定文化財については広報にて記事を定期的に掲載し、町民への周知を引き続き行った。 ・収集した文化財の情報をデジタル化し、町ホームページに公開できるかを今後さらに検討していく。
教育委員会による自己評価	C

施 策	町文化財資料の利活用推進
内 容	・積極的な資料提供により、学校の授業や公民館の講座等で町文化財を活用した学習機会を増やします。
成果と課題	・小学校児童が授業(郷土学習)や、公民館の主催講座としてお祭り会館や民俗資料館、重森三玲記念館へ来館する機会を増加できた。
教育委員会による自己評価	B

施 策	無形民俗文化財の保存・継承
内 容	・無形民俗文化財の周知や担い手の育成など、伝承活動に取り組んでいる団体へ引き続き支援を行い、地域に伝わる伝統芸能を保存します。 ・伝承活動団体により、次世代を担う子どもたちに授業や地域行事等で

	地域の文化を継承することで、郷土愛だけでなく、地域の大人たちとの関わりの中で、社会性や自主性を育むことが期待されます。
成果と課題	・地域の文化を伝承支援していけるよう「おかやま民俗芸能フェスティバル」への参加など、必要な支援を引き続き行った。 ・次世代へ文化財を継承していくためにも授業以外にも体験ができる活動を保存会等と連携できるよう検討していく。
教育委員会による自己評価	B

(2) 地域文化の育成

施 策	各種団体への支援
内 容	・町文化協会や公民館等の文化芸術活動を、広く町民に周知します。 ・各種団体の発表の場を提供し、活動の機会を増やします。
成果と課題	・文化協会主催で総合文化祭を開催し、送迎バスの運行など、必要な支援をした。 ・公民館の文化祭に出展するだけでなく、公民館と各種団体が連携して、活動機会が増えるよう団体を支援した。
教育委員会による自己評価	B

施 策	学校での文化芸術鑑賞の機会の提供
内 容	・各学校に国や県の事業情報を提供するとともに、周知の方法を工夫することで、児童生徒の鑑賞の機会を確保します。
成果と課題	・独立行政法人日本芸術文化振興会の舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)や岡山フィルハーモニック管弦楽団メンバーによるスクールコンサート、文化人材バンク学校出前講座情報を提供した。 ・各学校が直接申請する方法へ変わり、申請しても不採択となっていることもあるため、国や県以外の事業についても幅広く周知できるよう努めていく。
教育委員会による自己評価	B

■有識者による評価意見等及び教育委員会の考え方

(6 地域文化の育成)

評価者名	前嶋 英輝
評 価 意 見	文化財などの保存・継承は、いうまでもなく町内の問題にとどまらない重要課題である。有識者のネットワークを辿って調査の方法を点から線、面へと広げて、大切に守ることと同時に観光資源の可能性も含め

	た広い活用を検討したい。すでに教育委員会としては成果を蓄積しているので今後に期待できる。保存の方法として情報のデジタル化は必然だが、急速になくなりつつある地域行事など無形文化財については情報化すると同時に保存できる可能性を模索する時期に来ている。映像化できるものは写真やビデオデータとして、地図や資料とともに保存できるものは聴き取り取材を含めて情報化したい。町文化財資料の利活用推進は、取材自体によっても可能となる場合があり、教育現場でも生きた教材となる可能性が高い。その意味でも地域に伝わる伝統芸能の保存会との連携は高く評価でき、団体への支援は重要な課題である。 地域文化の育成では、公民館活動を基本にして各種団体が自主的な活動を行うことができるように支援している点が評価できる。学校での文化芸術鑑賞の機会の提供についても具体的なコンサートや講座を提供できており、同時に内外の各種情報の提供ができています。地域にも多くの文化芸術に関する人材が存在し、身近な機会をより多く提供できる可能性がある。教育委員会がプロデュース機能を発揮されることを期待する。
評価者名	佐藤 智子
評価意見	高齢化が進み、他の市町村も文化財の保存・継承に頭を悩ませているようである。町の文化財保護委員会だけでなく、他の市町村との情報交換会などは開催されているのだろうか。他の市町村では、地区住民がロードマップ作りなどで声をかけられているという話も聞いている。 町内の民話・昔話を収集し、本を編集した手段は、ロードマップ作りに生かされないだろうか。
教育委員会の考え方	文化財の保存と継承は、町としてもその重要性を深く認識している。文化財を単なる保存対象に留めることなく、観光資源として広く活用する可能性を追求するため、関係機関と連携して積極的に活用していきたいと考えている。 文化財や芸術を次世代に継承していくためには、町民にとってより身近な存在となることも重要であると考えます。広報紙に定期掲載している「文化財探訪記」や芸能発表など、これまでの成果を基に、地域文化・芸術の振興に寄与するよう取り組んでいく。

VI 終わりに

令和7年4月の小学校統合に向けて、町立小学校・園統合準備委員会等で検討が進められ、ハード面、ソフト面ともに着々とより良い教育環境となるよう準備を整えることができた。

町の総合計画の「22世紀の理想郷(ふるさと)吉備中央町」の実現に向けて、今後も教育委員、事務局職員自らが点検及び評価をし、学識経験者の方からいただいた意見を取り入れ、さらに教育委員会活動を充実させ、学校教育、社会教育、文化、スポーツ等に関する事務を担当する機関として、教育行政における重要事項や基本方針を決定し、それに基づいた具体の事務を滞りなく執行できるよう、引き続き努力していくこととしている。